

創立 1980年10月8日



ROTARY CLUB OF SAKAI NORTH

第2640地区 堺北ロータリークラブ週報

事務所 〒590-0940 堺市堺区車之町西2丁1番30号 ポピア南海3階302号

Tel (072) 223-2300 番 Fax (072) 223-5005 番

URL : <https://www.sakai-kita.jp/>

E-mail : snrc@jasmine.ocn.ne.jp

例会日 毎週金曜日 午後0時30分

例会場 南海グリル 天兆閣別館 4階「ローズ」 Tel: (072) 222-0131 番 (代表)

ガバナー(第2640地区) : 藤井秀香

ガバナー事務所 URL : <http://rid2640g.com/fujii/>

E-mail : fujii@rid2640g.com

会長: 山中喜八郎 幹事: 塩見 守 広報委員長: 坂田兼則 編集者: 國井 豊

四つのテスト 言行はこれに照らしてから 1.真実かどうか 2.みんなに公平か 3.好意と友情を深めるか 4.みんなのためになるかどうか

本日の例会

2020年8月28日(金)第1887回

テーブル会議

テーマ:「創立40周年記念式典について」

「ガバナー公式訪問について」 他

今週の歌 「四つのテスト」

「浜辺の歌」

お客様の紹介・出席報告・

会長の時間・委員会報告・

幹事報告・SAA報告

今週の歌「浜辺の歌」

あした浜辺を さまよえば

昔のことぞ 忍ばるる

風の音よ 雲のさまよ

寄する波も 貝の色も



前回の例会

2020年8月21日(金)第1886回

卓話 「この頃思うこと」

卓話者 木畑 清 会員

今週の歌 「それでこそロータリー」

「堺北RCの歌」

「夏の思い出」

お客様の紹介・出席報告・会長の時間

委員会報告・幹事報告・SAA報告

○皆出席表彰(8月度)

塩見 守 会員(第8回)

○米山 功 労 者 表 彰

那須宗弘 会員(第3回マルチプル)

奥野圭作 会員(第2回マルチプル)

<8月21日(金)の出席報告>

会員数	30名
出席会員	18名
欠席会員	12名
ゲスト	0名
ビジター	0名

次回の例会

2020年9月4日(金)第1888回

『ガバナー公式訪問』

卓話者 RI 第2640地区ガバナー 藤井 秀香 様



2020-21年度 国際ロータリーのテーマ

「ロータリーは機会の扉を開く」

国際ロータリー会長 ホルガー・クナーク (ドイツ・ヘルツォークトウム・ラウエンブルク・メルンRC)

卓 話

「この頃思うこと」

木畑 清 会員



皆様、体調は如何ですか。新型コロナウイルスに、熱中症が加わり、ワクチンが出来ないなか、不安だらけで暮らしています。過去にこうした感染症があったか調べてみました。

- ・江戸時代（幕末）天然痘（疱瘡）種痘前までは必ず発病し、死亡率が高い病気として世界中で流行していました。大阪の適塾の緒方洪庵が、牛痘（ワクチン）に反対、抵抗されながらも苦心のすえ、撲滅に成功しました。
- ・明治初期はコレラが発生しました。適塾出身の長与専齋が横浜、長崎に検疫所を設置して水際で防ぎました。国民に「養生」から『衛生』という概念を植えつけました。
- ・衛生局の後藤新平は明治28年日清戦争より20万の兵隊が帰国する際、大阪（桜島）下関（彦島）の検疫所に、コレラ患者を隔離して感染を防ぎました。
- ・1918年（大正7年）スペイン風邪が日本全国に蔓延しました。患者数2300万人、死者38万人におよびました。世界では第一次世界大戦の中立国スペインから情報統制がなかった為、米国、ヨーロッパに感染が拡がり、推計患者数約5億人、死者1700万人といわれます。
- ・H1N1型ウイルスの病原体は光学顕微鏡で見ることが出来なかった。原因特定する技術がなかった。流行性感冒といわれているが、結果的に根本的に無策であった。

会長の時間

会長 山中 喜八郎



2014年に高倉健さんは、亡くなりました。大好きな俳優さんでした。寡黙で一本気な「日本の男」を演じた。2014年11月、83歳で死去。最後の出演作となった、12年の「あなたへ」

まで、生涯205本の映画に出演した。

私は高倉健さんが大好きでした。それで、いつも彼が通っている京都のイノダコーヒー三条店に通い、彼の席が決まっていたので、空いている限り、その席でコーヒーを飲みました。よりコーヒーが美味しく感じられました。また、彼がいれば、必ず喋りかけていました。正面の席で、入ってきた他客から顔が見えない位置で、皆様が知っていて、彼が来ると、その席を空けていました。多い時は（京都で撮影がある時等、錦之介さん等と一緒に来てはりました。）私は、同志社大学に60歳を過ぎて通っていましたので、2回お会いしました。

エピソードは、彼がケーキを食べる姿です。直営のケーキ工場、確か「ケテル」と言っていたと思います。中のレーズンがアクセントの甘さ控えめのケーキでした。どうです、天下の高倉健がケーキを食べているのですよ。

私も、今も三条を通りますと、必ずと言ってよい程、寄っています。一度行かれたら、話のタネになりますよ。ただ、私も大学と縁がなくなって、十数年になります。ネット等で確かめてから、行かれる事をお勧めします。

委員会報告

広報委員会

「ロータリーの友 8月号の紹介」

広報委員 池田 茂雄

（左開き）



(1) 8月は会員増強月間です P7
「私がロータリーを続ける理由、そしてその魅力」と題して、日本人7名、外国人6名の方々から

の記事が紹介されております。

(2) バーチャル国際大会 P18

ハワイでの国際大会は中止となりましたが、バーチャル国際大会が6月20日から開催されました。本会議の初日と2日目に94,187人が参加、そのうち日本からは2,144人でした。

(3) 米山記念奨学事業 P24

日本の大学で学ぶ外国人留学生を奨学金で支援する事業。今年度は883人が対象です。始まりは1952年で、これまでの累計では世界129か国からの留学生21,624人を支援してきました。以来68年間、平均年318人となります。

(4) ロータリーの友・電子版 P31。

パソコン、スマホ、タブレットから簡単にアクセスできます。IDとパスワードいります。

(5) ポールハリスとロータリー P35

(その生い立ち・後半) .バーモント大学2年生の時、学生不良グループのリーダー格とみなされ自ら退学した。ポールは無関係だったが一言も言い訳をしなかった。祖父の厳しい叱りと教育でプリンストン大学に再度入学。その年の冬、祖父が他界した。1年生を終えたポールは祖母と休みを過ごすため帰郷したが、学校には戻らず大理石会社の事務員となった。それを見かねた祖母があなたは法律家になる適正があるよだから、もう一度大学に入って勉強し立派な弁護士になって一生懸命働き、今まで迷惑をかけたお世話になった世の中の人々にその借りを返さなければいけませんよ。うん、頑張ってくるよ、おばあちゃん。やがて、アイオワ州立大学を卒業し弁護士試験にも合格した。その頃、彼の人生に大きな影響力を与え、世の中のためになれと励まし続けた祖母も大学在学中に他界し、ポールは大きな心の支えを失っていた。祖母から受けた愛情と教養がいかにか大きなものだったかが分かります。

(右開き)

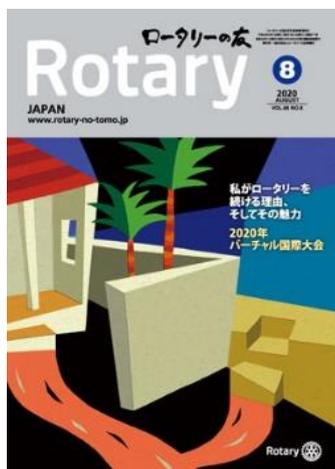
(1) 友愛の広場 P16

「四つのテスト」が人生の道標

私は、事の大小にかかわらず何かの決断をする際には、四つのテストを思いだすようにしている。

(2) ロータリー アットワーク P18

堺フェニックスRC. 地元高齢者施設へ医療用フェイスガードとマスクを寄贈



社会奉仕委員会

「ダメ・ゼツタイ「募金の報告」

社会奉仕委員長 池永 隆昭



8月度「ダメ・ゼツタイ」募金を行いました。

募金金額は、11,500円でした。皆様のご協力に感謝いたします。

SA A報告

- 山中喜八郎会員 北側先生の元気な姿を見せて頂き、ますます日本の国が安泰です。
- 城岡陽志会員 社員の家族にコロナ感染が出ました。ヨメが家へ帰って来るなど言われ、私は4日間ホテル住まいでした。基礎疾患があるので覚悟していました。結果は陰性でした。未練はあるが悔いはなし
- 木畑 清会員 孫が5人来てくれました。一緒に墓参りに行きました。
- 北側一雄会員 猛暑ももう少しの我慢。お体、ご自愛を。
- 嶽盛和三会員 お盆終わりました。ホッとしています。
- 米澤邦明会員 池田会員の名調子、昔なつかしい紙芝居を聞いている様でした。
- 綿谷伸一会員 残暑お見舞い申し上げます。コロナ禍に負けずガンバロー！
- 塩見 守会員 米澤会員フェイスシールドありがとうございました。大切に使用させていただきます。木畑会員の卓話楽しみです。

合計22,000円

◆米山奨学特別寄付・・・濱口正義会員

幹事報告

(1) 本日記布物

- ・週報
- ・ロータリーの友 8月号

(2) 米澤会員よりフェイスシールド寄贈

本日、例会でお配りしましたフェイスシールドは、米澤会員より寄贈していただきました。ありがとうございました。



8月皆出席表彰 塩見 守 会員 (第8回)



ロータリーボイス

世界で行動する人びとの体験談とストーリー

日本のロータリーがOne Teamに ～『医療従事者を守ろう』

寄稿者：福田哲三氏 (名古屋和合ロータリークラブ)

COVID-19禍の中、我々ロータリアンは活動を阻む難しい現実と直面しました。資金があっても医療機器・資材を購入できない、集まってチームを組めない、困っている人たちに直接会って励ますこともできない等々。海外の仲間たちからも「人工呼吸器を送って欲しい」「医療用マスクが足りない」などの数多くの支援要請が届いたものの、日本でも医療用アイテムは入手できないというもどかしい日々が続いていました。

そして届いたブラジルの友人の動画…「自分たちでフェースシールドを作ったよ」。そうか、購入できなければ自ら作れば良い、と思い立ったのが3月下旬でした。友人と『300個くらい作ろうかな』で始まった取組みは、その後図らずも地元の資材メーカーや加工会社約10社の協力を得ることとなり、大量生産が可能になりました。そして4月中旬には2760地区の伊藤靖祐(やすすけ)ガバナーの呼びかけで国内全34地区のガバナーたちがOne Teamとなって取り組むという大事業となりました。34人のガバナーの熱意とパワーが大きな原動力となり、『医療従事者を守ろう』という号令のもと、全国に寄贈されたフェースシールドの数は5月下旬までに100万個を超えました。

IMG_9422 また、4月下旬になると海外からフェースシールドを送って欲しいとの依頼が届くようになりました。SNS等で日本でのフェースシールド事業を知ったようです。そこで再び全地区に打診した結果、23地区が参加してブラジル、ペルー、フィリピン、マレーシアに合計約55万個を送ることになりました。

現在、ロータリー財団本部にグローバル補助金の申請をしているところです。

各国政府(保健省)の協力のもと輸入関税を免除してもらい、現地ロータリアンの手によって医療現場に届ける計画です。

また、バングラデシュやインド、パキスタン、インドネシアなどからもフェースシールドの支援依頼が来ています。今後の日本の第2波、第3波の状況と合わせて、引き続きロータリーの力を結集して新型コロナウイルス感染症に対峙していきたいと思っております。

(<https://rotaryblogja.wordpress.com/>より)

